

分散観光で3密回避 県内観光地の取り組み

新型コロナウイルスの影響で激減した観光客が県内の観光地に戻り始めている。

過去2年間のゴールデンウィーク中は、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令されており、近隣の観光地を訪れるだけでも「後ろめたさを感じる」という状況下で、箱根や鎌倉などのメジャーな観光地も来訪者が激減し多大なる被害を受けていた。今年、2年ぶりの外出制限のない大型連休では各地で来訪者も増え、回復傾向が鮮明になっている。

来訪者がコロナ禍前の水準に近づくにつれ問題になってくるのは特定の場所や時間帯に観光客が集中する「オーバーツーリズム」。県内の観光地では、ポストコロナの観光の再活性化に向けて様々な取り組みが進んでいるが、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の舞台になっている鎌倉市では、「3密」の回避のためドラマの放映に合わせてこれまで観光客が訪れることの少なかったスポットにも足を運んでもらう「分散観光」を推奨、鎌倉市観光協会も「鎌倉殿×13人の重臣たち」という特設サイトを設けて観光スポットをアピールしている。また地元のホテルも独自に「鎌倉殿の13人」にスポットを当てたリーフレットを作成・配布するなどしている。

箱根町でも観光業界を元気づけようと芦ノ湖で「芦ノ湖四湾一斉打ち上げ花火大会」などのイベントが行われる一方、AIを活用した渋滞緩和にも力を入れていて、渋滞を避けて誘導する体制を作り、観光周遊性を高めることを目指している。

今後はインバウンド需要も見越して、今まで以上に特定の場所に「人が集中しない観光地づくり」が重要になってきているのではないかと。各地の取組に注目したい。

神奈川新聞社 東京支社営業部長 黒瀧 應司



比企一族ゆかりの寺 妙本寺



法華堂跡 (北条義時墓)